児童に見られるつまずき

　ちがいを求めるときの基準となる数を理解することができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　具体的操作を通して、どちらがどれだけ多いかを説明したり、問題場面を数図ブロックや図を用いて説明し合ったりする活動を通して、何を基準にして何を比べているのかという見方を身に付けさせる

指導事例集ｐ．９１

１　学年・単元名　　第１学年　ひき算（求差）の意味（数量関係領域）

２　単元目標

「どちらがどれだけ多いか」という違いを求める場面を理解する。

３　単元の内容

・求残、求部分、求差をひき算の式に表す。

**・求残、求部分、求差の場面を数図ブロックで操作し、ひき算の式に表す。**

・ひき算が用いられる場面や、ひき算の記号や式のよみ方、かき方を理解する。

４　本時の目標

「どちらがどれだけ多いか」という違いを求めるには、同じところを引くことを理解する。

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点  **太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入  展開  まとめ | １　くじ引き競争をする。  　　　○■○○■○■  先生と子どもチームでは、どちらがいくつ多いでしょう。  ・先生と子どもチームのカードを分けて比べる。  　　先生■■■　　子ど**も**○○○○  参考：授業の様子①  ・多い分がわかるように、１対１対応で並べなおして比べる。  　　子ども　 ○ ○ ○ ○  先　生　**おおい** ■ ■ ■  　　 　　　 おなじ  参考：授業の様子②③  ・同じところを取ると、多い分がわかることを確認する。  参考：児童のノート①  ２　緑色のかえるは、黄色のかえるより何匹多いかを考える。  みどり　　●● ●●●  きいろ　 **おおい**  ○○○  おなじ  参考：児童のノート②  ３　今日の学習をまとめる。  ・いくつ多いかは、同じところを取るとわかる。 | ・子どもチーム対教師ですることで、勝ち負けを比べたい気持ちを持たせる。  ・引いたカードに合わせてブロックを出させる。  **・どうして子どもチームの勝ちなのかを問うことで同種のものを集めさせる。**  **・本当に多いのは１枚かなと問うことで、カードを対応させて分かりやすく並べることのよさに気付かせる。**  ・多いところが答えだから、同じところはいらないことを確認する。  ・同じところを取ると違いがわかることをブロックで操作し、操作したことをノートに書かせる。  **・２人組でブロックや図を使って、多いのはどの部分なのかを示しながら、どちらが何匹多いかを確認させる。** |